

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	永沼 淳子		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 4		
講義室	1313	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し実践することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP3-G 〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文書表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能(40%) F1 探求と論拠(15%) G1 状況把握(10%) I1 理解・分析と読解(10%) K2 オーラル・コミュニケーション(10%) L1 チームワーク(15%) M1 統合的・応用的学修(5%)		
教員の実務経験	特にありません。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対比 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、卒業論文につながる個人研究に関する研究方法、調査方法などを確立するために、その学術的方法論の検討と指導を行います。授業形態は演習により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。 ■キーワード 民法・日常生活の危険・判例研究		

授業の趣旨	■副題 民法(財産法・家族法)の判例研究を行います。 ■授業の目的 民法(財産法・家族法)の判例研究から発展的な知識を修得することで、法を用いた問題解決方法を学びながら、論文執筆の準備を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 現行民法は、明治29(1896)年に制定され、120年余が経過しています。120年の間に民法の適用範囲である個人の経済活動や家族関係は大きく変化しているため、公平な判断をするための工夫として、新たな学説や判例変更で対応してきました。したがって、判例を研究することは、実際の社会を知ることであり、また残された課題から未来を知ることにもなります。判例を読み解くことで、民法の様々な制度の基礎知識を学びながら、研究に必要とされる文献収集の手法を身につけ、自らの興味にそった卒論のテーマを決定し、論文執筆の準備段階である個人報告をすることになります。	
総合到達目標	一般総合目標【GIO】 法を用いた紛争解決方法を修得するために、民法(財産法・家族法)に関する判例研究から発展的な知識を理解する。また、卒業論文執筆の準備のために、収集した資料を読み込み、深く考察する。 個別行動目標【SBOs】 1.民法(財産法・家族法)の判例研究を行うことで、民法の発展的な知識を説明することができる。(第2回から第15回) 2.判例研究に必要な文献収集と文書作成をする過程で、論理的思考と批判的思考が身につく。(第2回から第15回) 3.自ら決定したテーマを理解するために、文献収集の手法を用いて広範な知識を修得できる。(第2回から第15回) 4.報告資料作成と説明の過程で、自分の言葉で正確に説明する論理的思考が身につく。(第2回から第15回) 5.書籍・データベースから関係する資料を調査・収集できる。(第2回から第15回)	
成績評価方法	■卒業論文のテーマに関する報告の完成度・充実度（50%）適用ルーブリックE1・I1・K2 (評価の観点)テーマを理解したうえで、問題点の解決方法を適切な言葉で理論的に説明できるかを評価します。 (フィードバックの方法)報告を聞いたうえで、次回へのアドバイスをします。 ■他者の報告に対し、有益な質問をするなどの参加度（50%）適用ルーブリックE1・H2・K1 (評価の観点)法的問題点を理解し、批判的思考による考察の結果を理論的に説明できるかを評価します。 (フィードバックの方法)質問に対する解説を行います。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 卒業論文のテーマを決定の準備(E1)と、執筆要綱やスケジュールを確認する(G1)。 ③予習(120分) ゼミナールⅠで修得した電子ジャーナルや書籍検索の手法を用いて、卒業論文のテーマをリサーチする。 ④復習(120分) 卒業論文執筆スケジュールを確認し、卒業論文のテーマを引き続きリサーチする。
	2	①授業テーマ 卒業論文のテーマ決定 ②授業概要 卒業論文のテーマを決定し(I1)、執筆の準備段階である個人報告のための文献検索を開始する(E1)。 ③予習(120分) 電子ジャーナルや書籍検索の手法を用いて、卒業論文のテーマをリサーチする。 ④復習(120分) 執筆要綱を熟読し、決定したテーマに関する文献収集を行う。
	3	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告

	②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
4	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
5	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
6	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
7	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
8	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
9	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)

	(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
10	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
11	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
12	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
13	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
14	①授業テーマ 卒業論文のテーマに関する個人報告 ②授業概要 各人の卒業論文のテーマに関する中間報告をレジюме等の資料を用いながら行い(E1)(F1)(I1)(K2)、他者の質問・指摘に対応し(G1)(I1)(L1)、それらを踏まえさらに文献を収集する。 ③予習(120分) 次回報告に使用するレジюме等の準備と、適切な説明をするための準備を行う。 ④復習(120分) 報告に対する質問や指摘の論点を整理し、次回の報告で対応できるようにする。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 個人報告をまとめ(M1)、卒業論文全体の構想から残された課題や不十分な項目について検討する(B1)(G1)(I1)。 ③予習(120分)

	卒業論文の全体像とこれまでの報告資料を比較する。 ④復習(120分) 残された課題や不十分な項目について文献検索を行う。
関連科目	生活安全と法(RMGT1401)・民事法Ⅰ(RMGT2341)・民事法Ⅱ(RMGT2342)・民事法Ⅲ(RMGT2343)と危機管理基礎演習(RMGT2601)と関連します。
教科書	特に指定しません。必要な資料はゼミナールで配布します。
参考書・参考URL	ゼミナール内で適宜指示します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。 ■オフィスアワー 第1回講義(ガイダンス)でお知らせします。それ以外の時間帯を希望する場合は、事前にメール等で予約をすることにより対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%:パブリックセキュリティ10%:グローバルセキュリティ10%:情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学20%:法学80%

